

## 令和6年度福岡市博物館協議会 議事録

日 時	令和7年3月18日（火）10時30分から12時00分まで
場 所	福岡市総合図書館 第1会議室
出席者	福岡市博物館協議会委員 12名 福岡市博物館 28名
議 題	1.議案 (1) 会計年度任用職員の選考について  2.報告事項 (1) 事業報告 (6年度実績・7年度計画・博物館リニューアル推進事業)

### 1 開会

運営課長 委員の過半数以上出席であり、本協議会は成立している旨を宣言。  
館長 開会あいさつ

### 2 議事内容

1. 議案 (1) 会計年度任用職員の選考について
  - ・選考ポストである市史編さん室の会計年度任用職員の候補者について、経歴等を説明の上委員に諮る。
  - ・出席委員全員異議なし
2. 報告事項 (1) 事業報告 (6年度実績・7年度計画・博物館リニューアル推進事業)
  - ・資料「福岡市博物館について」を用い、館の6年度事業報告、7年度事業計画及び博物館リニューアル推進事業の状況について報告する。
  - ・質疑内容は以下の通り。

委 員 特別展示室の令和7年度の計画として4つの展覧会が挙げられているが、この4つは第三者が借り上げをして行うもので、このほかに自主企画展があると考えていいのか。来年度の自主企画展はどんな展覧会かを教えてほしい。

事務局 特別展示室の制度上、展覧会主催者は福岡市とは別のところになる。学芸員の研究や地域の文化財調査の成果を発表する展覧会は、主催者として実行委員会を組織し、協力いただける事業者に入ってもらい開催している。自主企画展はこの形で行っている。協賛展示や巡回展示と呼ばれるものは、「福岡市博物館さん、一緒にやりましょう」と声をかけてもらって実施するもので、現在開催中の民藝展などがこの形に当てはまる。協賛展示や巡回展示での学芸員の関わり方は様々で、貸館のように場所を貸すだけの時もある。最初から立ち会って、関わりながら作り上げていく場合もある。自主企画の時は、ほぼ、博物館が単独でつくっており、採算度外視で、市民の方に地域の文化財や博物館の調査研究の成果を還元する目的で行われている。来年度の特別展に関しては、「魔法のスコープ」展が自主企画展となっている。

委 員 今年度は5つの展示を行っていたが、来年度は4つになるということか。

事務局 そういうことになる。今年度は、4月から行われていた藤城清治展と、7月から行われていた大哺乳類展が、いわゆる貸館と呼ばれる会場使用料をいただくだけの形の展示。その後の大灯籠絵展、九州真宗の源流展、民藝展は実行委員会方式の展示で、そのうち、大灯籠絵展は自主企画展となっている。

委 員 これまでも参加型の展示を要望してきたが、いよいよ来年度の特別展「魔法の歴史スコープ」は体験型の展示という説明があり、期待している。この展覧会について、現在計画を進めているところだろうが、今のところの状況や、展示で得られたものをリニューアルにフィードバックするかどうかについてお聞きしたい。具体的には、「魔法の歴史スコープ」は参加型・体験型に舵を切るということだが、どのような内容の展示になるのか、どのような資料を並べるのか、来館者の声をどのようにすくい上げて抽出するか、説明フローはどうするか、博物館や考古学的知見から離れた説明にはどう対応するか、もっと知りたいという声にはどう応えるかについて詳しく教えてほしい。

事務局 この特別展は、来場者に体験してもらおう形式の展示で進めているが、従来から続けているように、博物館の強みを活かした正確に歴史を伝えることはしっかり行い、その上で福岡の今と未来について一緒に考

える、またそのきっかけとなるような構想で検討を進めているところである。博物館ならではの資料の活用をベースとした内容で参加していただくのがよいと考えている。実現できるかは分からないが、具体的には、江戸時代の文書資料をもとにした江戸時代の食の再現などを企画している。

委員

世界的にみると、リスクを取っても展示の準備段階から新しい取り組みを入れており、リスク回避できている事案がある。ゲームとのコラボなどこれまで考えられなかった動きも出てきているので、ぜひチャレンジしてほしい。次に、リニューアルに関し、一般の方の意見をどのように取り入れているかをお聞きしたい。先週、イギリスの大英博物館を訪れた際、エジプトやギリシャなど、大英博物館でコアとなっている展示の大改修が発表されていた。大英博物館は、早い段階で一般に構想を広めて、ディベートを促すように仕掛けていた。大規模な改修を控えている博物館は、このような事例をリサーチし、参考にすべきではないか。このような取り組みは、福岡市というブランドにも大きく作用できるチャンスではないかと考える。ぜひ、今回のリニューアルでどのように外部の意見を取り入れるのかを考えてほしい。

委員

確かに、イギリスのシティミュージアムでは、コンセプトや歴史認識から変えていこうという意識がある。ぜひ、福岡市博物館でも海外の事例を参考に検討してほしいと思う。

委員

リニューアル中のスケジュールについてお聞きしたい。休館中の文化財の展示はどうか。

事務局

休館中は市民が入れない状態となる。主要な所蔵品については、公開展示ができないか検討しているところである。「これがあるからこそ福岡に行きたい」と思ってもらえるような資料については、福岡市美術館などで展示ができないかということも少し検討している。

委員

説明の中で南側広場が話題に出ていたが、先に改修が完成する南側広場の中で、今後新しくできる博物館について顔出しをするような検討はされているかお聞きしたい。

事務局

レストラン施設は、博物館に先行して営業してもらうことになるため、集客も念頭に、博物館側がコンテンツを持ち込んで何かできればということは考えている。また、雨と強い日光が防げるような屋根を付けた交流施設も作る予定であり、そこで博物館の普及活動の実施もできるのでと考えている。休館中だからと言って事業を縮小するのではなく、予算もしっかり確保して、これまでになかったアウトリーチ活動にも取り組んでいくつもりである。

- 委員 博物館が開館した後の南側広場の活用を探る意味も込めて、休館中からさまざまな取り組みを行ってほしい。
- 委員 最初の説明で展覧会の報告がされていたが、観覧者数なども知りたい。特に市美術館と合わせて、民藝展が盛り上がっているように感じているが、実際の状況について、具体的な数字を知りたい。また、次年度の特別展の計画についても、もっと具体的に教えてほしい。また、大阪万博が開催されるが、万博と連携した企画などはないのか知りたい。
- 事務局 令和6年4月1日から12月末時点での特別展の観覧者数は123,000人ぐらい。大灯籠絵の観覧者数は約7,800人。民藝展は最終的な観覧者数が14,000人ぐらいの見込みで、数字としては成功と言えるのではないと思われる。今のところ、万博に向けて積極的に行っていることはないが、大阪市立美術館のリニューアルオープンもあることから金印の貸し出しを行う予定である。
- 委員 高島市長も「万博の波及効果を日本中に広める」と言っており、万博の期間中は多くのインバウンドが来ると思われるので、博物館でもお出迎えするようなコンテンツができれば良いのではないかと。インバウンドの受け皿としての役割を果たすためにもぜひ検討してはどうか。
- 委員 報告資料について、広報の項目の中で、どれが「インバウンド受入環境向上」に当たる部分なのかを知りたい。福岡市では韓国や台湾が8割を占めている中、博物館の外国人観覧者としてこれだけ欧米の方の数字が上がっているということは、効果的な発信や受入体制を考える良い紐付けになる数字ではないかと思う。こういう方が関心を持つものを積極的に情報発信することを期待している。欲を言えば、ウェブサイトも見にくいし海外向けの分かりやすい情報発信ができていない状況。小学生や中学生向けに発信されている情報は、実は大人世代の方も知りたいと思っているものなのかもしれないので、それを海外向けにすることで分かりやすい発信になるのではないかと。広く、多様な文化背景を持つ方へ発信することに力を入れることを期待している。また、万博などに合わせて情報発信することで、多くの人の目に入ったり、メディアに取り上げてもらったりする機会も増えるので、これからの博物館には便乗する強かさも持ってほしい。
- 委員 MICE 国際会議などに携わっている視点からコメントすると、国際会議には随伴者として子どもなども来られるので、開催期間中は子どもに向けた情報発信をしている。もし、今後の特別展などで参加しながら学べるプログラムがあるなら、ぜひタイアップできればと思う。また、リニューアルについても国際会議の参加者が楽しめるようタイア

ップできればと思う。

事務局

ユニークベニユアの活用は、リニューアル担当として考えているところである。リニューアルで博物館の運営は民間業者に依頼することになっており、ユニークベニユアの活用について、リニューアル後は運営の大きな業務の一つとして事業者に求めていくので、専門家を配置して積極的に行っていくことになる。博物館の整備についても、外部の方でもイベントが行いやすいようにハード面を整えていくことになる。

委員

令和8年2月ごろは、博物館はどういう状況になりそうか。

事務局

令和8年10月ごろに南側広場の整備が終わり、オープンする予定。その後、本館が休館になる。休館中、本館周りには囲いなどが張られる予定。

委員

特別展「魔法の歴史スコープ」には非常に関心があり、ぜひ今の福岡とこれからの福岡が見えるような内容を期待している。先ほど話が出た江戸時代のレシピについて、子どもは体験して楽しいと思うが、そこからどんな福岡が見えるか、これからの福岡をどんなふうと考えさせて欲しいのかなど、博物館としての願いがあるべきだと思う。こんなふうに考えて欲しいという狙いと仕組み、段取りが見えてこない。子どもは、体験をして、その時は楽しいと感じるが、そのあとに続かないことが多いので、そうならないための方向性がないといけないと思う。また、知人に博物館の印象を聞いたところ、「アニメの展示が多い」と言っていた。コロナ禍で遠くに資料が運べないなどの問題も出ていたが、もっと福岡の歴史が見えるような特別展があっても良いのではと思う。

事務局

特別展「魔法の歴史スコープ」に関して、子どもを含めた幅広い方に見てほしいと考えている。内容について、例えば、福岡は外国と交流してきた歴史があるので、航海の大変さが実感できる体験を通して、危険を伴う中でなぜ交流を続けてきたのかを考えてもらうといったことも検討しているところである。子どもに向けた対応としては、子どもむけのキャプションなどを検討している。

委員

香港に行った際に周辺の博物館を見る機会があったが、テーマに合わせた地元企画の展示があった。鬼滅の展示を行う際に大正時代の福岡を紹介する連動企画があったり、ディズニーの展示であれば福岡のオリジナルキャラクターを作ったりなど、展示に関連して福岡のことも紹介する工夫をぜひ検討してほしい。

委員

小学校で博物館の出入り授業を行う機会があり、子どもたちが非常に

楽しんでいる。さまざまなメニューがある中で、どの学校も勾玉づくりを行うところが多い。できた勾玉を持って帰れるところが人気だと思うが、もっと他のメニューは検討できないか。子どもたちがメニューを選択できるようなれば、より興味関心を高められると思うが、そういうことはできないか。また、出前学習があることで、ほとんどの小学生は初めて博物館の存在を意識するのではないかと思う。博物館を授業で扱う中学年では、ただ存在を知るだけになってしまっているが、博物館に行くような機会があると深く意識することにつながると思うので、中学年を対象にした体験学習を実施してはどうか。

事務局

勾玉づくりはパッケージとして完成しているものになっている。また、毎年体験に参加する子どもたちが変わるということもあるので、完成されたパッケージを運用する形になっているが、今後館内でも改良を検討したい。中学年への体験学習についても、リニューアルの休館をきっかけに検討したい。

委員

香港では幼稚園などの見学が、ヨーロッパでも小学校低学年の見学が多く、子ども用の鑑賞キットが用意されている。幼い子どもが遊びながら博物館で学ぶことは世界ではスタンダードになっているので、今後のリニューアルで取り入れてほしい。

委員

リニューアルについて、常設展示の内容の変更はあるのか。また、イベントスペースについて考えがあるのか伺いたい。博物館の常設展示に対しては、前からナラティブ性が強く欲しいと思っている。対外交流が福岡の歴史の特色だと思うが、リニューアルに際し、展示や集客にもっと結びつけていくことはできないのか。博物館は美術館と違い、コンテンツが地味だが、集客につながる工夫をするべきではないかと考える。唐人町からドームやマークイズへは人流があるので、それを取り込むことも挑戦してほしい。そういう意味で、南側広場のレストランは魅力的だと思う。福岡には、古いものは壊して新しいものを作り、昔は振り返らない市民性があると思っている。なので、来年度の特別展は期待しているが、他にも川上音二郎や檀一雄など、図書館や文学館で小さいコーナーでしか紹介されないような歴史も博物館で取り上げてはどうか。博物館の建物はバブル期に作られており、特徴的だと思うので、建物の活用ももっと検討してはどうか。良質な展示はもちろん、もっと集客に力を入れてはどうかと思う。

事務局

常設展示室は、今回のリニューアルで全面刷新することになっている。福岡の歴史は通史とつながる部分が多く、現行の展示は通史に沿った内容になっている。そのため、見学導線が長くなっているが、今後は

通史的な内容に加えて、食文化など、福岡の特色をテーマとした展示も組み込むような形で検討している。イベントスペースについては、博物館として伝えるコンテンツに対して空間が大きく、その余白を活かして人々の交流が生まれることが今回のリニューアルの基本路線の一つとなっている。

事務局 施設について、現在博物館周辺は腰高の壁が設置されているが、南側広場の改修で特に、サザエさん通り沿いがオープンになり、広場を斜めに貫く動線ができる。アクセスしやすく、交流の場になれば良いと考えている。市民から愛される広場になるよう、また、イベントスペースとして活用できるように整備するつもりである。また、新収蔵庫は高床式になっており、2階が収蔵庫で1階はピロティになる予定である。南側広場は屋根が無いが、ピロティは屋根があるため、天候に左右されずにイベントが行えるようになる。新しい博物館の使い方を周知するためにも、広報などにも力を入れるつもりである。

委員 リニューアルに関して、講座室や研修室はどうなっていくのか教えてほしい。中学校の教員の研修で講座室を使用する機会もあり、教員としても魅力的な施設だと感じている。またこうした活用からの博物館の存在の周知や集客につながると思うので、リニューアル後もこういった研修で活用させてもらえればと思う。

事務局 現在は20～30人規模で使用できる講座室ともっと大きな講座室とがあるが、小規模な講座室の利用は少ないので、100人規模で使用できて、場合によっては仕切りで区切ることもできる部屋を作る予定となっている。先生方にもぜひ活用してほしいが、修学旅行などの団体見学时に昼食会場としても使用できるような部屋を検討している。

委員 今回初めて歩いて博物館まで来たが、距離もあって不便だと感じた。歩いてまで来たいと思う魅力が足りていないとも思うので、駅から博物館までの導線の工夫も検討してほしい。

委員 リニューアルについて、ある程度形が決まっている印象を受けたが、市民の声を聞く場があるのか疑問に思った。これから市民に声を聞くと言うことであれば、学生に博物館の使い方を聞いてみたりするのはどうか。また、駅から博物館の導線について、公民館や地域の方にガイドしてもらおうというような取り組みを何かの機会に行なっても良いのではと思う。

委員 学生の声を聞いてはどうかと意見が出たが、学芸員課程を受けている学生に博物館との出会いを聞くと、非常に良い出会いをしていることを実感する。特に学芸員課程の実習生などの声を聞くのはいいこと

ではと思う。

委員

福岡は高等学校以上が多く、学生も 120,000 人ほどいて、毎年新しく 30,000 人ぐらいの方が福岡で新しく学び始めるという状況にある。そういった学生を受け入れるような場を 4 月ごろに設けてもらえると学生を連れて行きたくなると思う。学生が能動的に福岡のこと学んで、学生でいる数年間を楽しく過ごそうと思えるような取り組みをしてほしい。